

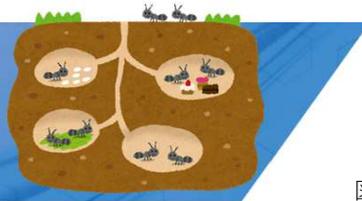
アリは本当に
甘いものがお好き？

図 粒状(左)・ジェル状(中央)の毒餌の設置、殺虫剤の散布(右)

段々と蒸し暑い季節になってきましたが、いかがお過ごしでしょうか？雨のためお家で過ごす時間が多いのではないのでしょうか。

さて、今月は家の中にも侵入してくるアリのお話を致します。皆さんのアリのイメージはどうでしょうか？一列に並んで行進している、甘いものや、食べこぼしに群がっている、童話のように働き者など…。

実は、日本には約280種のアリが生息し、基本的に肉食で、他の昆虫類や生物の死骸などを摂食しているものが多いです。ただし、雑食傾向が強いものや、樹液や甘露等を好む種もいます。このように、アリ＝甘いもの好きというわけで

はなく、種によって餌の好みが変わります。昨今、ホームセンターなどでアリの駆除用の毒餌は簡単に手に入りますが、使用しても見向きもしてくれず、効き目を実感できない場合があります。それは、そのアリが好む味の毒餌ではない、もしくは、餌の大きさや形状があっていないなど、

何か原因があるはずですが。

弊社はまず、どんな生態のアリであるか見極め、周辺を確認します。そして、その種にあった味の毒餌を使用し、場合によっては液剤や粒剤の殺虫剤などを併用し駆除作業を行います。どうぞ、お気軽にご相談いただければと思います。

表1 身近なアリの概要 ※は働きアリのサイズ

名前(亜科)	サイズ・特徴など
オオハリアリ (ハリアリ亜科)	4mm程度※、体色は黒色、大顎と脚は赤褐色。人を刺すことの出来る毒針を持つ。石や落葉の下や朽ち木などに巣を作る。捕食性で、特にシロアリを好む。
クロヤマアリ (ヤマアリ亜科)	約4-6mm※、体色は光沢のない灰、または褐色がかった黒色。乾燥した土壌を好み、開けた場所の土中や石下に巣をつくり、巣の出入り口はクレーター状に盛り上がる。
ルリアリ (ルリアリ亜科)	2mm程度※、体色は光沢のある黒色、腹部はルリ色の光沢が角度によってはわずかに見える。雑食性で肉食傾向が強い。ティッシュやトイレトペーパー、電子機器等に巣ごと引越す事例が見られる。
トビロケアリ (ヤマアリ亜科)	約2-4mm※、黒褐色で公園などに普通に見られる。アブラムシの甘露を好む。ハネアリ(7-8月頃の夜)は灯火などに非常に誘引されやすく、朽ち木などから出るためシロアリとしばしば間違えられる。
キロシリアゲアリ (フタフシアリ亜科)	約2-3mm※、体色は全体的に黄褐色、ヒアリとよく間違えられる。1つの巣に女王アリが複数いることがある。ハネアリ(9-10月の夕方)は灯火によく誘引される。
サクラアリ (ヤマアリ亜科)	1.5mm程度※、体色は淡褐色。甘味を求めて家屋内に侵入することがあり、家屋の壁下や、天井裏などに営巣することもある。
アミメアリ (フタフシアリ亜科)	2.5mm程度※、頭部と胸部は茶褐色の網目状の柄、腹部は黒褐色で丸く光沢がある。女王アリがおらず、働き蟻だけで繁殖し、定住巣を作らない。甘いものが好き。

今月の

豆知識

牧畜を行うアリ



人間は牛や豚などの家畜を飼育し、肉や毛皮を利用する牧畜を行ってきました。この行動は人間以外の生物ではあまり知られていませんが、実はアリにも牧畜を行う種類がいるのです。

多くのアリで甘露を得るために、アブラムシやカイガラムシを外敵から保護する行動が確認されています。今回紹介するミツバアリの仲間は、日本では主に沖縄で見られ、体長2mm程の黄色いアリで、“アリノタカラ”(蟻の宝)カイガラムシという虫を自身の巣で育てる習性を持っています。ミツバアリは地中にある植物の

根の近くに巣を作り、そこでカイガラムシに根の汁を吸わせて飼育し、カイガラムシが出す甘露を食料として利用しています。このように、自身の巣で飼育まで行うのは、ミツバアリの仲間だけです。この両者の関係は非常に密接で、ミツバアリは食料をカイガラムシだけに頼っており、アリノタカラカイガラムシはアリの保護無しでは生きていけません。そのためミツバアリの新女王は結婚飛行の時に必ずカイガラムシ(単為生殖可能)を1匹、口に啜って飛び立ちます。そして新しい巣で新たにカイガラムシの牧畜を始めるのです。